

| 発生日            | 国名     | 種別       | 概要  |
|----------------|--------|----------|---|
| 2021年<br>10月5日 | 中国     | がけ崩れ     | 中国北部では国慶節の連休期間（10月1日～7日）に雨が降り続いたことで、複数の地点で洪水やがけ崩れの被害が発生した。<br>山西省（Shanxi）を流れる烏馬河（Wumahe）では5日、連日の雨と上流からの増水により堤防が数か所決壊し、多くの村落が水に覆われた。現地では8村落のおよそ1万5,000人が夜を徹して安全地帯に避難し、7日時点では、死傷者の発生は報告されなかった。現地では全力を挙げての救援活動が行われた。また、山西省の蒲県（Pu Xian）荊坂村一帯では連日の雨のため、5日午後11時ごろにがけ崩れが発生し、5人が生き埋めになった。夜を徹しての救助作業で全員が発見されたが、4人が死亡した。犠牲者の多くは勤務中の交通警察官とのこと。そのほかにも、6日には嘉陵江の増水が四川省（Sichuan）南充市（Nanchong）に達した。   |
| 10月11日         | フィリピン  | 土石流      | フィリピン当局は12日、豪雨の影響により全土で洪水や土砂災害が発生し、少なくとも9人が死亡、11人が行方不明になったと報じた。台風18号（アジア名：コンパス、Kompasu）は11日、フィリピンを通り南シナ海（South China Sea）へ抜けた。最も人口が多いルソン（Luzon）島では広い範囲で洪水が発生した。また、内陸部にあるベンゲット（Benguet）州では土砂災害により4人が死亡、沿岸部のカガヤン（Cagayan）州では1人が水死し、ルソン島では7人が行方不明になった。カガヤン州の報道官によると、主な幹線道路と橋が冠水したが、12日には水は引いた。台風によりモンスーンの勢力が増し、西部パラワン（Palawan）州の村では土石流が起こり、4人が死亡、4人が行方不明となった。  |
| 10月16日         | インド    | 地すべり、土石流 | インド南部ケララ（Kerala）州当局は17日、大雨で地すべりと洪水が発生し、少なくとも25人が死亡したと発表した。生存者の捜索が行われたほか、軍が救援物資の空輸を行った。沿岸部に位置する同州では15日夜から雨脚が強まり、河川が増水、道路が冠水したため、一部住民が孤立した。当局は、イドゥッキ（Idukki）、コッタヤム（Kottayam）両地区で地すべりと土石流が発生し、それぞれ11人と14人が遺体で発見され、更に行方不明者数は確定できていないと報じた。17日、州知事は数千人が避難しており、少なくとも100か所の避難所を開設したと明らかにした。地すべりが発生したコッタヤム地区コーティカル（Kootickal）の住人は「家も子どもたちも流されてしまった」と、地元テレビ局マノラマ（Manorama）に語った。   |
| 10月18日         | インド    | 土砂崩れ     | インド北部で18日から19日にかけて、豪雨による土砂崩れや洪水が発生し、少なくとも41人が死亡、多数が行方不明となった。ヒマラヤ（Himalayan）地方に位置する北部ウッタラカンド（Uttarakhand）州当局の発表によれば、18日には土砂災害により6人が死亡。翌19日にはさらに複数の土砂崩れが発生し、35人が犠牲になった。最も被害が大きいナイニタル（Nainital）では、同日朝に7件の災害が発生し、少なくとも30人が死亡した。インド気象庁は19日、北部でさらに2日間にわたり豪雨の継続が予測されたため、気象警報の延長と対象地域の拡大を行った。インド北部のヒマラヤ地方は土砂災害が頻発する地域だが、専門家は異常な降雨と氷河の融解により災害発生頻度が増えていると指摘。水力発電用ダム建設や森林破壊も災害増加の要因となっていると訴えていた。   |
| 11月12日         | エジプト   | 土石流      | 11月12日、エジプト南部のアスワン（Aswan）で異例の豪雨による土石流が発生し、少なくとも3人が死亡した。また、アスワン市では、500人以上が豪雨や土石流に追われ、押し寄せたサソリに刺される被害に遭った。エジプト国営紙アルアハラム（al-Ahram）によると、サソリに刺された住民は病院に搬送され、抗毒剤を投与された。アスワン地域の平年の降雨量は年間1ミリ前後。しかし、12日は異例の激しい雷雨やひょう混じりの暴風雨に見舞われた。今回の土石流ではエジプト治安部隊の隊員3人が死亡した。アスワンの当局者によると、過去11年で最悪の被害となった。住宅や道路の損壊、倒木などの被害も出た。   |
| 12月4日          | インドネシア | 火砕流      | 12月4日、インドネシアのジャワ島東部にある標高およそ3,600メートルのスメル山（Mount Semeru）が噴火し、火砕流がふもとの集落まで流れ下った。インドネシア国家災害対策庁（BNPB）は、46人の死亡が確認され、さらに12人の行方不明者の捜索が行われたと報じた。この噴火で東ジャワ（East Java）州ルマジャン（Lumajang）県では、少なくとも11村が被害を受けた。その後も小規模な火砕流が確認されたため、地域の住民およそ6,500人が、政府の指示によりスメル山から離れた場所に避難し、テントなどで生活した。インドネシア火山地質災害軽減センター（PVMBG）の元センター長は、スメル山に残る溶岩ドームが大雨などで崩落すれば再び規模の大きな火砕流が起きる可能性があるとして指摘した。同氏は、スメル山には以前から噴出していた溶岩が流れ出さずに盛り上がった「溶岩ドーム」を形成し、約2平方キロメートルの溶岩ドームが大雨で地すべりのように崩落し、火砕流となったと分析した。さらに火砕流の温度は400度、平均速度は時速200キロと推定され、住民が避難するのは困難だったと述べた。 |
| 12月22日         | ミャンマー  | 土砂崩れ     | ミャンマー北部カチン（Kachin）州パカン（Hpakant）のヒスイ鉱山で22日午前4時ごろ、土砂災害が発生し、少なくとも1人が死亡、70～100人が行方不明になった。近くにある別の複数の鉱山に積み上げられていた大量の土砂や廃棄物が、約60メートル下で採掘作業を行っていた作業員たちの上に崩れ落ち、彼らを巻き込んで湖に流れ込んだ。救助隊員と消防隊員、およそ150人態勢での捜索活動で、鉱山作業員1人の遺体発見後も、引き続き捜索が行われた。また報道によれば、付近の3つの店舗が土砂に埋もれる被害を受けた。これらの店には災害発生時、少なくとも5人の住人がいたとのこと。世界で最もヒスイの埋蔵量が多い地域のひとつである、カチン州のパカン地区で発生したこの大惨事は、ヒスイ産業に関する腐敗の横行から、軍がこの地域でのヒスイ採掘を禁止していたが、一部の企業による違法な採掘が続いていた。   |

| 発生日           | 国名      | 種別   | 概要   |
|---------------|---------|------|--|
| 2022年<br>1月3日 | 中国      | 地すべり | 3日午後7時ごろ、中国内陸部・貴州省 (Guizhou) の山間部に位置する畢節 (Bijie) 市の建設現場で斜面が崩落し、作業員ら14人が死亡した。病院の研修施設の建設作業が行われていた現場で、突然地すべりが発生した。この事故で、作業員ら17人が巻き込まれ、3人は救助されて病院に搬送されたが、14人が心肺停止の状態で見送られ、その後、死亡が確認された。  |
| 1月8日          | ブラジル    | がけ崩れ | ブラジル南東部ミナスジェライス (Minas Gerais) 州を襲った豪雨により、州防災当局によると、11歳の少女を含む10人が、大雨や洪水、土砂崩れにより、1月9、10日に死亡した。2021年10月上旬に雨期が始まって以来、ミナスジェライス州では19人が死亡した。1月8日には、同州フルナス (Furnas) 湖に面した崖の一部が崩れ、落下した岩が遊覧船4隻を直撃し、10人が死亡する事故も起きた。1月上旬までの集計によると、暴風雨の影響で計1万7,237人が自宅の放棄または避難を余儀なくされたとのこと。事故当時、州内の853自治体のうち145で、極端な気象現象を受けた非常事態が宣言されていた。  |
| 1月17日         | アフガニスタン | 地すべり | 1月17日、アフガニスタン西部で強い地震があり、少なくとも26人が死亡した。地すべりや日干しれんがでできた家屋の倒壊で被害が広がった。地震のマグニチュード (M) は5.6、震源の深さは約30キロとみられるとのこと。特に被害が大きいの、バドギス (Badghis) 州の州都カライナウ (Qala e Naw) に隣接するカディス (Qadis) 地区とされた。インターネット上には、倒壊した住宅の写真や山の斜面が土煙を上げながら家々の方に崩れてくる動画などが次々に投稿された。地元メディアによれば、隣接するゴール (Ghor) 州でも地すべりで幹線道路が寸断されたとのこと。アフガニスタンでは都市部から離れた地域への交通手段が乏しく、被害の全容把握に難航し、イスラム主義組織タリバン暫定政権下の混乱もあるため、救出や復旧活動が円滑に進むかどうかも懸念された。 |
| 1月31日         | ブラジル    | 地すべり | 2022年初めから断続的に降り続いた大雨で、ブラジルで最も人口の多い南東部のサンパウロ (Sao Paulo) 州と北隣のミナスジェライス (Minas Gerais) 州で、大規模な洪水と土砂災害が発生し、少なくとも両州で合わせて43人が死亡、50万世帯が被災した。サンパウロ州フランコ・ダ・ローシャ (Franco da Rocha) では、長雨で緩んだ地盤で発生した地すべりで、一家3人を含む6人が死亡、3人が行方不明になった。また、サンパウロ市郊外のフランシスコ・モラト (Francisco Morato) では、子ども4人の死亡が確認された。さらに、サンパウロ州では少なくとも600世帯が住む家を失い、ミナスジェライス州では1月中旬に19人が死亡した。   |
| 1月31日         | エクアドル   | 土石流  | 記録的豪雨に見舞われた南米エクアドルの首都キト (Quito) で1月31日、地盤が緩んでいた山の斜面で土石流が発生し、家屋やスポーツ施設が流れ、少なくとも23人が死亡した。1月最後の週末には、南米太平洋側のコロンビアからエクアドル、ペルーにかけて記録的な大雨が降り、各地で洪水や土砂災害が発生した。エクアドル首都のキトは、標高4,800メートルのピチンチャ (Pichincha) 山の中腹に位置し、土石流が発生した地区の斜面は、この大雨で地盤がかなり緩んでおり、土石流は一部で深さ3メートルに達したとのこと。土石流発生翌日の2月1日には、土砂に埋まった住民の助けをを求める声を頼りに、生存者の捜索と救助活動が開始された。   |
| 2月4日          | オーストリア  | 雪崩   | 2月4日、オーストリアのチロル (Tyrol) 州で雪崩が発生し、5人が死亡、1人が負傷した。犠牲者はスイスとの国境付近で雪崩に巻き込まれて雪の下敷きになった。現地は大雪に見舞われており、チロル州では48時間で50件以上の雪崩が確認され、気象当局が注意を呼びかけていた。スキーリゾートとして知られるゼルデン (Soelden) で起きた雪崩はゲレンデを直撃し、5人が生き埋めになったが、全員が救出された。   |
| 2月8日          | コロンビア   | 土砂災害 | コロンビアで8日早朝、豪雨による土砂災害が発生し、少なくとも11人が死亡、35人が負傷した。国家災害リスク管理局 (UNGRD) が明らかにしたもので、捜索・救助活動が行われた。現場は中西部リサルダ (Risarlada) 州ドスケブラダス (Dosquebradas)。複数の民家が土砂に埋まった。新たな土砂崩れが起きれば現場近くを流れる川がせき止められ、被害が拡大する可能性があったので、氾濫を警戒し、川沿いの住人は避難した。  |
| 2月15日         | ブラジル    | 土石流  | ブラジル南東部リオデジャネイロ (Rio de Janeiro) 州ペトロポリス (Petropolis) で発生した集中豪雨による洪水や土砂災害で、23日までに204人の死亡が確認されたと警察が報じた。ペトロポリスの市によると、同市では15日、3時間のうちに、前月の総降雨量に近い258ミリの雨が観測された。山腹の貧民街などで土砂崩れが発生し、民家が押し流された。死者のうち188人の身元が確認された。51人前後がなお行方不明だが、所在確認と遺体の身元確認が進められた。25日には約800人が避難所に身を寄せていた。一方で市内各地でがれき、被災車両の撤去作業や泥のかき出しが行われた。ペトロポリスは美しい山岳景観で知られる観光地で、リオデジャネイロ市民の避暑地となっていた。ブラジルはここ数か月豪雨に見舞われ、死者を伴う洪水や土砂崩れが相次いでいた。     |
| 3月15日         | ペルー     | 地すべり | 南米アンデス山脈沿いにあるペルー北部のパタズ (Pataz) で15日、雨が数日にわたって降り続いた影響で大規模な地すべりが発生した。およそ60棟の住宅が巻き込まれ、少なくとも6人が行方不明となった。現地からの映像には山の中腹が突然、大きく崩れ、ふもとに建てられていた住宅が次々と土砂に巻き込まれていく様子が映っている。また、複数の人が建物に閉じ込められ、警察などが捜索を行った。ペルー政府は15日、現地に国防相を派遣するとともに、自治体と連携して被災した住民の支援にあたる方針を表明した。地元メディアによると現場付近には、鉱山で働く労働者とその家族およそ3,000人が斜面などに家を建てて住んでいたが、地盤がぜい弱なため、地元当局が土砂災害の危険性を指摘していた。  |